

資料3

環境調査における河川水の測定について（継続）

1 経緯

令和4年第2回(8/22)中園議事録

（環境調査について）河川水調査は埋立地に必要な基準ではないため、調査を終了してもよいのではないかと昨年から議論している。大腸菌群数が参考基準値を超えているが、原因は自然由来であり、処分場の影響ではないと考えられるためである。

（以下、河川水調査について）処分場の処理水が河川に放流される地点をはさんで、その上流と下流で調査を行っている。これは、処分場の処理水によって河川が何らかの影響を受けているかを確認するための調査であるが、この調査を今後も継続すべきか否かが論点となっている。終了すべきという意見の理由は、処理水の調査を行えば充分である。大腸菌群数等の測定値の変動は（処分場の影響ではなく）自然由来である、など。

河川水調査の継続について、メリットは周辺住民の安心につながる、デメリットは処分場の影響に関する調査としての意義はほとんどない。地元委員から調査の中止に対する肯定的意見があったが、この会議で即中止を決定するのではなく、地域の理解を得られるよう丁寧に進めていきたい。

事務局においては、これまでのデータ整理等を行って、原因の特定は無理としても、河川水の大腸菌群数と処分場には因果関係がないことが証明できるような資料を作成願いたい。それによって、地域の理解を得た上で河川水調査を終了する、というプロセスを進めることを提案したい。

2 調査結果

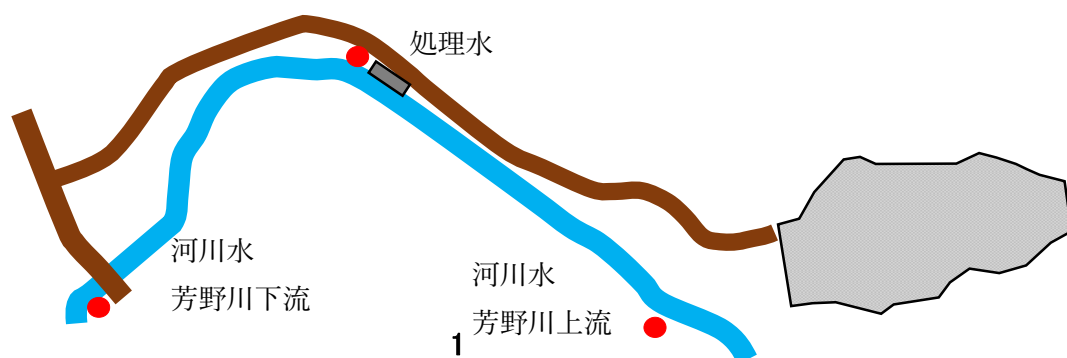
過去3年の環境調査で測定した大腸菌群数を比較検討しました。（別表）

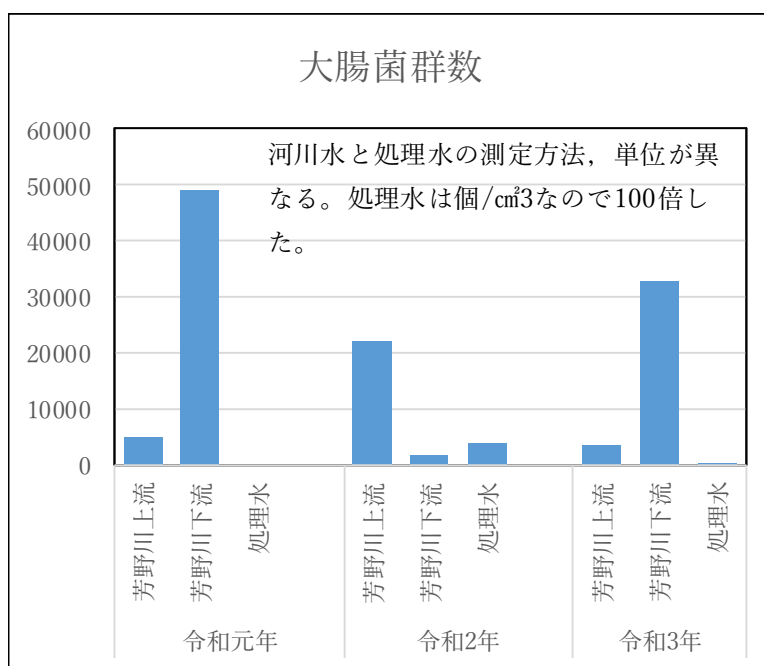
(1) 芳野川上流及び下流

上流、下流ともに全ての調査結果において、評価の参考とした環境基準値(1000MPN/100mL)を超過しています。

上流と下流を比較すると、令和3年度と令和元年度において下流側の数値が高くなっていますが、処分場処理水は下流と比較して低い値なので、処分場処理水との因果関係はないと考えます。

図1 採水地点





(2) 中園廃棄物最終処分場合流点下流(50m)

令和3年度と令和2年度において、評価の参考とした環境基準値(1000MPN/100mL)を超過しています。

平成28年度に行った生活環境影響調査において測定した渇水期の合流点下流の河川流量と中園廃棄物最終処分場の年間平均放流量を比較すると、処理水は100倍程度希釈されることから、処理水の値を1/100として合流点下流の値と比較すると1/10~1/100程度と低いので、処分場処理水との因果関係はないと考えます。

図2 採水地点



3 今後について

河川水の測定結果についてご確認頂き、河川水調査の終了について審議して頂きたい。